

5

着実な計画推進のために

印旛沼及び流域の再生は、一朝一夕でなし得るものではありません。昭和40年代以降、約30年かけて、流域水循環の変化、印旛沼の水質悪化、生態系の劣化等が生じてきました。これらを改善、再生していくためには、長期にわたる取組が必要です。また、その間、社会状況や印旛沼周辺の状況も変化すると考えられます。

本計画の目標年次は2030（平成42）年度で、関係者全員が、今後20年以上の間、取組を継続していかなければなりません。そこで、次のような考え方・仕組みにより、関係者全員が意識を持ち続け、取組を着実に実行していきます。

5.1 計画推進の方法

着実な計画推進のために、下記の4つを行います。

- ① 目標の達成状況は毎年確認します。取組の実施状況は、各行動計画において定める進捗管理方法に従い確認します。
- ② 5年毎に計画（目標達成状況や取組内容等）を点検し、必要に応じて計画を見直します。
- ③ 各行動計画が終了する段階で、各期の課題等を踏まえて次期行動計画を決定します。
- ④ 印旛沼流域水循環健全化会議を継続的に開催し（1回 / 年程度）、会議において①～③について評価・確認・討議します。

計画

- 健全化計画
- 行動計画
（第1期、第2期、第3期、第4期）

実践

- 取組実施
- みためし行動
- 印旛沼わいわい会議

恵みの沼を
ふたたび

見直し

- 実施状況の評価
- 取組の見直し
- 新たな取組の立案

確認

- 取組の実施量
- 目標達成状況
- モニタリング

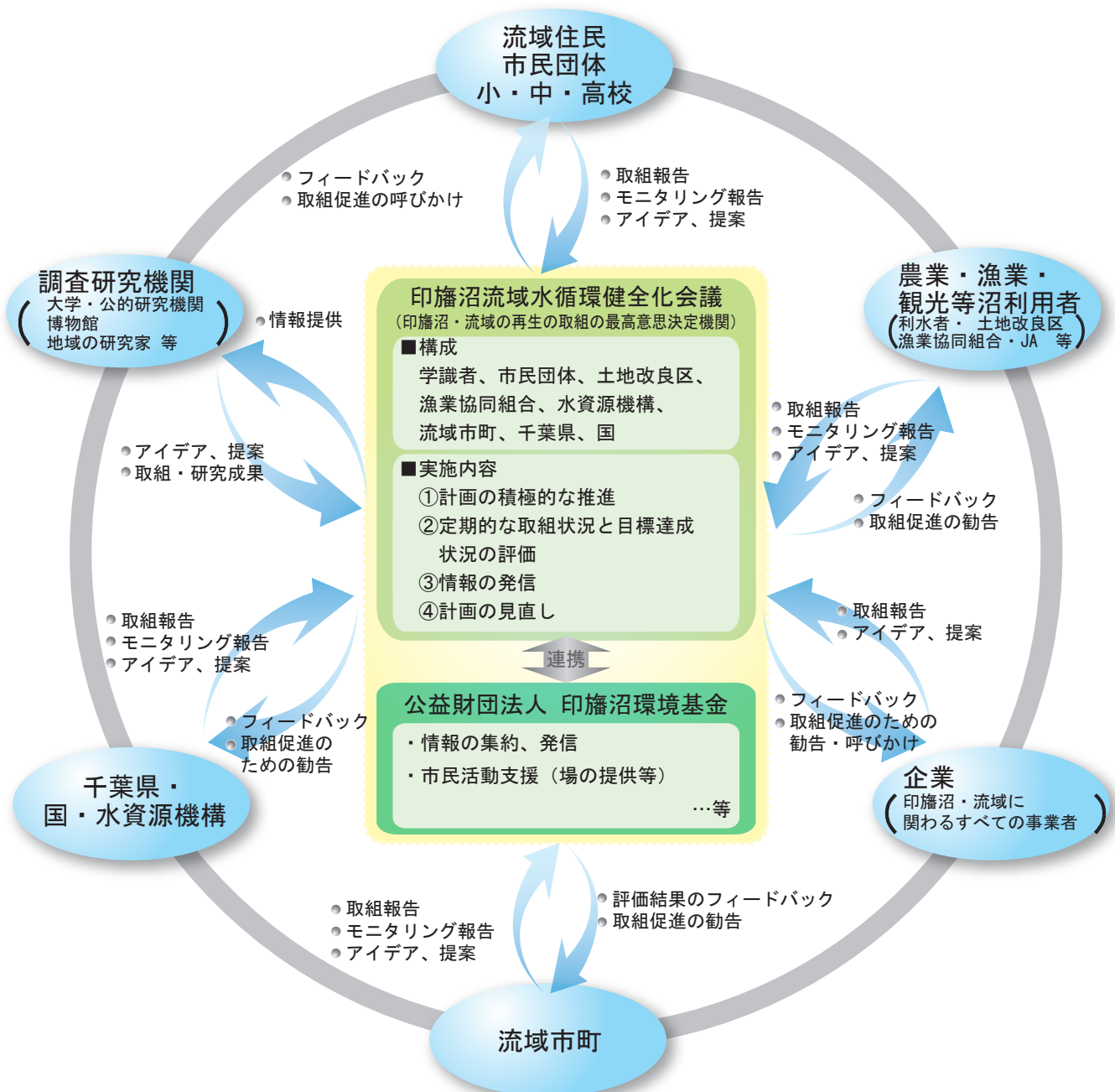
「みためし※」による計画推進

※みためし（見直し）：経験を積み重ねて、試行錯誤を繰り返しながら確立していくこと

5.2 印旛沼の6者連携

印旛沼流域水循環健全化会議を中心に、住民や市民団体、企業、水利用者、行政等関係する6者が連携して計画を推進します。

また、地域の専門家や市民団体、行政等が連携して計画を推進・実践するため、健全化会議と印旛沼環境基金は連携した体制をとり、市民活動等の取組を推進します。



印旛村・本埜村は2010年3月に印西市と合併

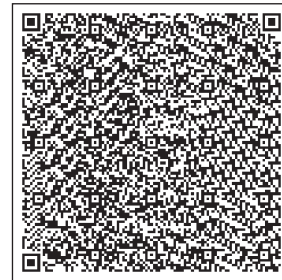
印旛沼の6者連携



5.3 情報の発信

健全化計画の内容や計画の実施状況、モニタリング結果の他、イベント情報等印旛沼の水循環健全化に関する情報を、WEB サイト等により、広く発信します。

最新の情報を随時更新するとともに、情報収集の場、意見交換の場としても活用していきます。



QR コード

WEB サイト「いんばぬま情報広場」

<http://inba-numa.com/>

